

管内の概況

位置・気候

管内の西部を南北に北見山地、南部を東西に千島火山帯が走り、北東部は280kmにわたってオホーツク海に接し、3市14町1村で構成されています。

気候は、冬期間の寒さは厳しいものの比較的穏やかで、年間平均降水量が800ミリ程度と少なく、日照時間に恵まれた地域です。沿岸部ではおおむね1月下旬～3月にかけて、オホーツク海特有の流氷により海面が覆われます。しかし、地球温暖化の影響を受け、近年では減少傾向にあります。

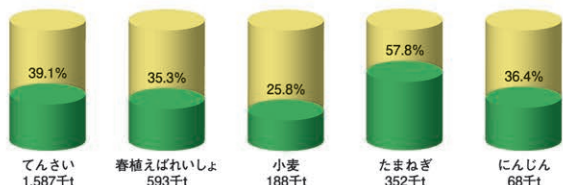
産業

農業

管内の農業は、畑作と酪農を中心とした大規模農業が展開され、我が国の総合食料基地として重要な役割を担っており、耕地面積は16万5,600haと全道の14.5%（令和3年）を占めています。

畑作物では、寒冷地に適したてんさい、春植えばれいしょ、小麦とたまねぎを中心とした野菜類が主に作付けされており、たまねぎは全国1位の収穫量を誇っています。また、畜産では、酪農、肉用牛生産が中心となっています。

主な農産物の道内生産量シェア（R3）



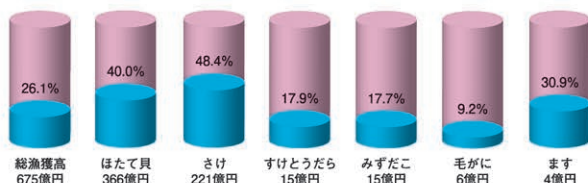
出典：農林水産省 作物統計調査（令和3年）

水産業

管内の水産業は、オホーツク海沿岸を漁場とするほたて貝、網漁業、さけ定置網漁業、毛ガニが漁並に沖合海域を漁場とする沖合底引き網漁業を中心に営まれています。

令和3年のオホーツク管内の漁業生産は全道の26.1%を占め、数量で28万9千トン、金額で675億円となっています。

総漁獲高と主要6品目の道内シェア（R3）



出典：北海道水産林務部「令和3年北海道水産現勢」

オホーツク管内沿岸の流氷観測（平年値）

観測地点	流氷初日	流氷終日	期間	流氷接岸初日	海明け
網走	1月22日	4月6日	75日間	2月4日	3月15日
紋別	1月24日	3月30日	66日間	2月9日	3月10日
雄武	1月25日	3月28日	63日間	2月5日	3月12日

*統計期間 1991～2020年 雄武は2004年、紋別は2007年に観測終了
網走の海明け、流氷終日は2021年に観測終了

出典：気象庁「北海道沿岸の流氷観測」



太陽の丘のコスモス（遠軽町）

林業

森林面積は、令和4年4月1日現在、768,862haで管内総面積の71.9%を占め、全道森林面積の13.9%に当たり、所有比率は、国有林56.0%、道有林14.1%、市町村有林4.4%、私有林25.5%となっています。総蓄積は、152,713千㎡で全道森林蓄積の17.9%を占め、道内の主要な木材生産地となっています。

樹種別蓄積量は、トドマツ・エゾマツ・カラマツ類等の針葉樹が63.9%、ナラ類・カンバ類・シナノキ等の広葉樹が36.1%となっています。

出典：北海道水産林務部「令和3年度北海道林業統計」

商工業

管内の工業は、食料品製造業、木材・木製品製造業など第1次産業に関連した地場資源利用型工業が主体ですが、電子部品・デバイス・電子回路製造業の占める割合も高くなっています。製造品出荷額（令和3年）は、3,748億円（全道比6.8%）となっています。

そのうち食料品の出荷額が2,757億円（同13.1%）と73.6%を占めています。

また、管内の商業では、年間商品販売額（平成28年）が6,950億円（全道比3.8%）となっています。

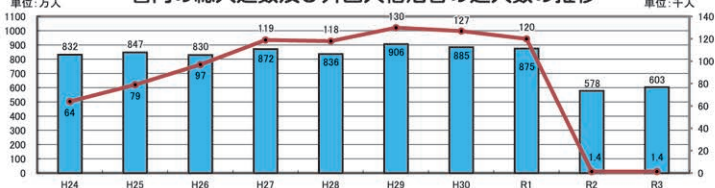
出典：北海道総合政策部「令和3・平成28年経済センサス北海道」

観光

管内には、世界自然遺産に登録された知床と阿寒摩周の2つの国立公園、ラムサール条約登録湿地の湧湖を含む網走国定公園のほか、2つの道立自然公園があります。山岳、湖、海などの豊かな自然景観とともに流氷やクリオネ、サンゴ草など他の地域には見られない四季折々の多彩な観光資源に恵まれています。

管内を訪れる観光客の入り込み数は、603万人（令和3年度）となっており、芝桜、コスモス、チューリップやひまわりなどの花観光や夏型のイベントに加えて、流氷や冬のスポーツを利用した冬型のイベントも各地で盛んに行われています。また、日本有数のサケ・マス漁獲量を誇るウトロ漁港では、早朝にサケの水揚げ、荷さばきをどなたでも間近でみる事ができ迫力満点です。

管内の総入込数及び外国人宿泊客の延人数の推移



出典：北海道経済観光局「令和3年度北海道観光入込客数調査報告書資料編」